

【資料1】

第一回検討会議の振り返り

第一回地域コミュニティビジョン検討会議 振り返り

日時:令和7年4月21日(月) 18:30-20:20



内容:「第一回検討会議」説明、ゲストスピーカー講話(株式会社KITABA・酒本氏)、意見交換

【事務局説明】

- ・現状(自治会加入率の低下、地域課題の拡大)
- ・課題(時代の変化に対応できるコミュニティとは=多様な主体による全世代参加型地域コミュニティ形成)
- ・仮説(バックカスティング思考、3つの視点(イノベーション・関係者の接続・好循環)、市民マインド)

【ゲストスピーカー提案】

- ・何か変わらなければいけないが、「どうしたらいいかわからない」「決められない」が自治会独自の課題
- ・地域コミュニティマネジメントには中立的立場でのコーディネータが必要。誰が担うのか、が課題
- ・サードプレイス(自宅・職場以外のリラックスできる居場所)の提供という視点は今後大事

意見交換：地域コミュニティビジョン策定に向けた考え方(3つの仮説)

○望ましい未来像を描き、そこから逆算(バックカスティング思考)

○将来像を描く上での3つの視点(①現状からのイノベーション、②関係者の垣根を超えて接続、③好循環を生み出す)

○地域コミュニティビジョンの基盤となる市民マインド(市民性・気質)を踏まえた議論

会議の意見

・これからの地域コミュニティには、企業やNPOの協力が必要で、それを実現するために何が必要なのかをその地域で考えていくほうがよい。

・自治会・町内会の運営に市民センターがどこまでかわるか、ルールを整理してセンター町内会ができないか。

・大学生に所属団体の活動を紹介したところ、「自分も参加してみたいが情報がない」などの意見があった。外部に活動の見える化をする必要があると感じた。

・地域コミュニティの組織に入っている人は、一軒家に住んでいる方が多いと思う。マンションで一人暮らしでは情報が全くないし、まちづくりに接する機会もないと感じる。

・これからコミュニティをつくっていく人は誰なのか、地域で議論する時に若い人が抜け落ちていないか。若い人を主体にして、決裁権も与えられないか。

・子育て世代がどう考えているのかをつかんだ上で地域コミュニティの未来像を議論したほうが良い。PTAを活用して幅広く意見を集めてはどうか。

・アクティブなシニアの豊かな社会経験をまちづくりに生かしていただく目的でゴールドシニア認定をしてはどうか。

・若い人は若い人で考えて、動いていて、つながりを求めているわけではない。世代間ギャップを感じている。

・将来像があったほうが若い人も入りやすい。地域コミュニティが若い人のノウハウを活用できる場となれば、地域の役割を担う若い人も出てくる。

キーワード

多様な主体の参加

全世代参加

意見交換：地域コミュニティビジョン策定に向けた考え方(3つの仮説)

○望ましい未来像を描き、そこから逆算(バックキャスティング思考)

○将来像を描く上での3つの視点(①現状からのイノベーション、②関係者の垣根を超えて接続、③好循環を生み出す)

○地域コミュニティビジョンの基盤となる市民マインド(市民性・気質)を踏まえた議論

会議の意見

・コミュニティの組織は、抜本的な改革が必要で、戦術ではなく概念ごと変える必要があると思っている。

・バックキャスト型の思考で、どれぐらいの地域が未来像を描きながら活動しているのか、今後はこの思考が必要であることを改めて感じた。

・今、自治会未加入が非常に多くなっている。なぜ未加入になるのかの部分が必要だと思っている。現状から解決策が出てくるので次々に実践すれば、それが未来像に繋がると考える。

・子育て、福祉、空き家、地域交通、働き方など、住民に近い地域コミュニティが課題を受けとめざるを得ない状況にある。解決のすべてを地域コミュニティに求めることはできない。地域コミュニティは何をどこまで担うのか、「それは本当に地域コミュニティの課題なのか」を整理することからスタートする必要があると感じる。

・地域コミュニティを考える際に市民性や気質は大事だが、マインドの部分だけではなく、北九州市が築いてきた都市文化やその構造も大事。

・以前に地域コミュニティが担っていたことを将来にすべて維持できない状況である。地域コミュニティにどの機能は絶対に残すべきかという議論は必要。

キーワード

サステナブル(変化)

地域コミュニティ